

## 審査の結果の要旨

氏名 薛 翊嵐

### 論文題目「中国都市における高齢者の居場所に関する研究」 -広州市の旧市街地を対象として-

本論文は、広州市の旧市街地における「社区（居住コミュニティ）内の公共空間」、高齢者施設及び「社区外の公共的施設-茶楼」での高齢者の日常の行動を観察することにより、高齢者の滞在に適する空間について解明することを目的としている。

現在、中国の都市は高齢化が進み、高齢者の居場所づくりは現実問題としても政策課題としても急浮上していることが背景となっている。

第一章では、研究の背景等を述べている。

第二章では、研究対象地域である広州市、旧市街地と市民・高齢者の生活実態、高齢化に対する対応の現状と問題点を紹介した。

第三章では、旧市街地「逢源街区」の公共空間である「文昌花苑」の調査結果が考察された。「文昌花苑」は、2002年には、多種多様の活動が存在し多彩な交流が行われ、老人から子供まで自由に活動や交流を行い、若者にも適する場所であったが、2007年には再整備され活力を失った。調査結果から、区内の公共空間では以下の4点が重要であることが分かった。

- ①安全性、快適健康な屋外環境の提供、人に優しい道路家具と施設デザインと配置、適切な空間スケール、五感を楽しむ空間など。いつでも気軽に近づける環境。ちょっとした行動を通して高齢者同志の交流の可能性が生まれ、コミュニティに対して帰属感を感じることができる。
- ②多機能を備える施設、設備と場所の確保。高齢者だけでなく子供や若者にも好まれる空間。
- ③いくつかの活動拠点を形成し得る場所の確保。好きな機能を備える施設や設備による固定性拠点と、公演などの時間性活動を行う時間性の拠点があるが、開放された場所などでも活動要求を満たすことができる。数ヶ所の活動拠点を設けることで複数の利用が生まれ、交流の確率が高くなる。多くの利用者の存在は、足を止めて活動を眺める高齢者を引き寄せる。
- ④行動の「はみだし」。公共空間にある施設はできるだけ内部空間を開放し内外境界をあいまいにすべきである。視線と音の「はみだし」が人々に活動の内容を一目でわからせ、施設内部の機能と活動内容に引き寄せる確率が高くなる。公共空間にいただけで社区の活力を感じられ、多種多様な要求を満足させる。

第四章では、旧市街地「逢源街区」の公共施設である「文昌隣社康齡社区服務中心」の会員の生活や「康齡中心」の活動などの調査結果が考察された。

入会する人はほぼ同じ社区に住む隣人で、すでに顔見知りであり、入会によって、短期間で知合いが増え、日常熟知する空間・施設を利用して活動するので、新しい環境に適応性が低くなる高齢者でも不安感がない。活動を通じて互いに良好な関係を築き、区内の施設又は活動を通じて社

区の主人公意識が強くなり、社区を1つの家族と考え、社区で起きる出来事を自分の事と考え、助けが必要な社区住民を助ける。活動範囲は自宅から社区の公共施設まで広がる。また、近隣関係に対して、社区内の高齢者施設又は高齢者組織で行われる活動や、高齢者の存在は社区の潤滑油となり、住民と社区を有機的に結び付け、社区に対する帰属意識を強め、住民と住民、住民と社区の間に強いネットワークを形成させ、社区の活力を上げる。

第五章では、茶楼における利用実態調査結果が考察された。広州の独特な茶楼が高齢者の日常生活において社区外の居場所として重要な社会的な役割を果たしている。

高齢者は茶楼の快適さにそれほどこだわらないが、絶対条件とも言える衛生管理や長時間滞在に適する室温、エレベーターの有無は少なからず影響を及ぼしている。さらに長時間滞在に適する座り心地の良いテーブルや椅子、室内の採光・照明は利用を促す。

自由に出入りすることができる雰囲気、茶楼の雰囲気が庶民としての高齢者のすべてに対してオープンで、誰でも気軽に利用できる親切感が漂う茶楼は人気を博している。

茶楼は入り口で店全体を見渡せ、容易にグループ仲間を見つけることができ、着席中の客から来店の客を見過ごすことなく店内の状況を把握することができる数十平方メートルから 3,4 百平方メートルまでが適度の大きさである。粵劇が上演される茶楼にとっては客全員が適切な距離で観賞できる空間の大きさである。

茶楼では「搭台」行為により、高齢者の茶客間の交流が引き出される。交流を誘発するには、必要とされる道具の提供や共通の話題と注目対象が必要とする。適度なテーブルの大きさ、レイアウト密度や適度なバックグラウンドも交流を誘発するに役を立つ。

更に、客をなおざりにすることも、客の行動を邪魔することもなく、適度なサービスが必要である。

第6章では、諸章をまとめ、社区公共空間や茶楼などの社区内外高齢者の居場所の調査で得られた知見から、高齢者を社区の資源と見直した上で、彼らが活動しやすい社会環境舞台づくりと身近に利用できる施設代わりの居場所空間の計画について提言を試みた。

以上のように本論文は、旧市街地における社区内の公共空間、高齢者施設及び茶楼での高齢者の日常の行動を観察することにより、インフォーマルな行為も含めて、高齢者が真に居場所として滞在するのに適した空間のあり方が明らかにされた。

本論文では、従来のフォーマルな施設計画だけでは得られない、高齢者の行動が解明され、日本も含めて、今後の高齢者施設に関する建築計画の方向を提示するものであり、建築計画学の発展に大いなる寄与を行うものである。

よって本論文は博士（工学）の学位請求論文として合格と認められる。